

◎出前授業の様子

高橋しげ子先生が、沢山の本を紹介してくださいます。「楽しかった」とわざわざ伝えに来てくれるお子さんがいたそうです。本の紹介を真剣に聴いている児童の皆さんの様子が見られます。落ち着いた素敵な時間だったことと思います。気に入った本をみつけ、夏休みに、読書の時間を楽しんでもらえたら嬉しいです。



◎家庭科の授業で「読み聞かせの授業」松代高校 2年生 6/30

家庭科保育分野での特別授業のご依頼を頂き、職員と2人で伺いました。高校の家庭科の授業に呼ばれたのは初めての経験です。

まず、毎月10か月健診時に、親御さんに向けてお話しているブックスタートの内容を紹介し、次に読み聞かせのポイントをお話し、その後、絵本の読み聞かせの実践をしました。

生まれたばかりの赤ちゃんの脳は未熟で、特に3歳までに大きな成長を遂げます。その脳の成長には言葉環境が大きく影響しているということ、すべてを見て聞いて容易に吸収することができるこの時期の子どもたちにとって、周りの大人は環境の一部であることを理解しないとイケない、というお話をしました。

子どもの成長や発達、読み聞かせの大切さについて、みんなが学ぶ機会があると良いと思います。将来、親になるであろう、高校生の皆さんにお伝えできたことは、大変有意義で嬉しいことでした。



◎自分でテーマを考える 読み聞かせ授業 下条小 5.6年生 7/8



3つのお話を読み、テーマを考えてもらいました。『戦争をやめた人たちは』は、第一次世界大戦渦のクリスマスイブの夜、戦場で、銃声の代わりにクリスマスキャロルの歌声が響きわたったという、本当にあった奇跡のお話です。敵も味方もなく握手をしてクリスマスを祝い合う人々。戦争を始めるのもやめるのも人である、ということ、想像力の大切さや行動する勇気の尊さに気づかせてくれる本です。そして谷川俊太郎さんの『ともだち』、ウクライナ民話の『てぶくろ』の3冊を選書しました。

しました。

『てぶくろ』は、みんなで仲よく平和に暮らしたいというウクライナの人々の願いが込められたお話であるということをお話してから読みました。新たな気づきがあったと多くの子どもたちが話してくれました。「てぶくろの中にいた動物はウクライナの人たちで、てぶくろは避難所でおじいさんは兵隊で避難所を壊しに来たのかと思った」「てぶくろの中に住んでいた動物たちがウクライナの人たちで、子犬が攻めてくる人に思えた。こんなことがあっていいのか？と思った」「最後の“逃げていきました”がひっかかった」など、湧いてくる感情に従って自ら考える姿は厳かです。子どもたちの感想を聞きながら、改めて絵本の奥深さを感じました。

この3冊の本を聴いて子どもたちが考えてくれたテーマは、「みんなの輪」「大切な人たち」「人間関係」「戦争」「ともだち」「やさしさ」「失ってはいけない友」「仲間」「ともだちの大切さ」など、各々が心に響いたことを書いてくれました。

「これからはともだちの気持ちをもっと大切にしようと思った。」「ともだちの良いところを見つけた。」「ともだちや親やみんなを大切にしたい。」「よろこびをわかちあいたい」「まずは目の前の人たちや大切な人に声をかけたり守ったりしたい」など、自分に何ができるのかを真剣に考えている子どもたちの感想が多く、心が温かくなりました。素直で感じる力が素晴らしい子どもたちから学ばせていただいた、貴重な時間となりました。



図書館担当者研修会では「満40歳以上の本」について、多くの先生からご興味をお持ち頂き、大変嬉しいです。資料をお作りしますので、今しばらくお待ちくださいませ。